

みんなで賃上げ。ステージを変えよう！ 2024 春季生活闘争ニュース

2024. 3. 11 — 第 5 号 — 連合北海道 春季生活闘争本部

春の闘い、総力挙げて挑む

— 3.5 全道総決起集会 —

連合北海道（会長：須間 等）は3月5日（火）、札幌市の共済ホールで「2024 春季生活闘争勝利！！3.5 全道総決起集会」を開催し、構成産別や地域協議会など組合員650名が参加した。集会では大手先行組合の回答が集中するヤマ場を前に賃上げなどの処遇改善に向けて意思統一を図った。

須間会長は主催者挨拶で「2023 春闘では30年ぶりに3%を超える大幅賃上げが実現したものの、都道府県別の実質賃金の増減率で北海道は36番目に低い水準」と物価上昇に賃上げが追いついていない状況を指摘した上で「2024 春闘では、特に北海道で99%を占める中小企業での『労務費を含む価格転嫁』が行われるか否かが賃上げの成否を分ける」と広がりを見せる企業規模間の格差是正について強調した。さらに、実効性のある取り組みにするため「すべての労使交渉において、自社の取引が適正に行われているのか、労働組合がチェック機能を果たしていくことが重要」と述べた上で、「大幅賃上げを一過性で終わらせることなく、継続して毎年賃金上がる環境をつくろう。私たちの力で社会を変えていこう。」と集会参加者に力強く呼びかけた。



挨拶する須間会長

2024 春季生活闘争の方針を提起した和田事務局長は当面の取り組みや構成産別の要求状況、会社ごとの妥結状況などに触れた上で、「まずは連合に加盟する16%の働く仲間が闘わなければ、それ以外の多くの働く者に波及ができないということを認識した上で、今次春闘への結集をお願いする」と翌週からのヤマ場に向けて、決意を述べた。

その後、運輸労連の後藤書記長、電機連合の片桐事務局長、十勝地協の齊藤事務局長から今次春闘への決意表明があり、最後は団結がんばろうで結束力を固め、集会を終えた。

2024 春季生活闘争は、3月12日から最大のヤマ場を迎える。

